

受付番号：

2. 特定行為研修修了看護師としての実践報告

修了した特定行為の中から 2 行為について事例を挙げて下さい。(1 枚以内にまとめること)

事例 1 (特定行為区分名：呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連)

(行為名 : 気管カニューレの交換)

5 年前に ALS の診断を受けた 60 代の男性。1 年前より呼吸筋麻痺が徐々に進行し、気管切開術を施行し人工呼吸管理となり現在は在宅で療養中である。

月 2 回の訪問診療に同行し、カニューレ交換を手順書により実施している。実施前の身体観察を行い、手順書で実施できるかの判断を行い、安全を担保したうえでカニューレ交換を実施することを説明した。実施時も声をかけながら同行している訪問看護ステーションの看護師と協働し丁寧に実施した。実施後のバイタルサインの変化はなく、合併症もなく終了した。

また、胃瘻による経管栄養も行われており、月 1 回の交換も実施している。

現在は、患者からの信頼も得ており、訪問看護ステーションの看護師から判断や対応に困った際は電話で相談を受けられることや、医師への報告・連絡がスムーズに行えることで、訪問看護師からの信頼を得ることにつながっている。

事例 2 (特定行為区分名：呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連)

(行為名 : 人工呼吸器からの離脱)

40 代女性で急性大動脈解離のため、上行大動脈置換術を施行し夜間に CICU に入室となった。

循環動態が安定した段階で、手順書により人工呼吸器からの離脱の指示を受けた。手順書を基に鎮静薬の減量と RASS による鎮静深度の観察、鎮痛薬（麻薬による持続鎮痛剤の投与）による除痛を図り呼吸回数の変化、循環動態の変化に注意するとともに不安な表情がないかどうか密な観察を行った。RASS は 0 ～ -1 で深呼吸を促し排痰に努めた。創部痛の訴えもなく経過し、人工呼吸器の設定変更を段階的に行い、翌朝の医師の回診時には FiO_2 : 0.3、CPAP : 5 cm H_2O で血液ガス値良好で呼吸器から離脱できていた。回診時には、スムーズに抜管できた。

夜間当直医との連携を図り、朝方にかけて特定行為を実施することにより、安全にしかも人工呼吸器装着時間の短縮にもつながった。抜管後の呼吸状態悪化は無く経過した。